

□海外文献紹介□

膵癌の早期発見における CA 19-9 の評価—866 例についての prospective study

The evaluation of CA 19-9 antigen level in the early detection of pancreatic cancer: *Frebourg T, et al* (Cancer 62: 2287-2290, 1988)

膵癌は致命的な疾患で、平均生存期間はわずか3か月、5年生存率は2%である。予後不良は診断が遅れるため、患者の85%に診断時転移がある。CA 19-9の測定は膵癌の診断に有効であるが、そのほとんどは進行癌に対してであった。

著者らは、CA 19-9が早期膵癌の発見に有用かどうかを確かめるため、肝硬変症を除く良性疾患で入院した866人の患者を対象にCA

19-9の血中濃度をRI法で測定し、かつ2年間経過観察した。またCA 19-9が40 U以上の患者は全員膵のCTを受けた。その結果CA 19-9は117人の患者で増加していたが、うち115人は誤陽性の上昇であった。11人の患者では悪性所見が出現することなく、10か月以上もCA 19-9が上昇し続けていた。このことは、持続的上昇が膵癌とは必ずしも関連しないことを意味する。

癌と関連してCA 19-9が上昇したのは2人のみで、1人は膵癌の所見が出る8か月前はCA 19-9は正常であった。もう1例は100単位前後の変動を見ていたが、膵に異常なく、9か月後未分化肺癌が診断された。

CA 19-9の平均値はほとんどの

良性疾患で健康供血者より上昇が認められた。100単位以上は20人に、500単位以上の上昇は2人(胆管炎と水腎症)に認められた。特に肝胆疾患では他の疾患に比べ有意($p < 10^{-9}$)に上昇していた。肝機能との比較では、ALPの値にのみ相関($\gamma = +0.282$)が認められた。CA 19-9の上昇は癌細胞からの産生と胆汁うっ滞との2つのメカニズムが考えられる。

臨床的にはCA 19-9の測定は膵癌術後のモニターとして、また胆汁うっ滞のない症例での膵炎と癌との鑑別に有用である。しかし早期膵癌の発見には有効性なしと結論している。

(桑野協立病院 栗原修司 抄)